

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23402042

研究課題名(和文)自治政府設立後におけるキャンベラの都市開発および住民の人間関係

研究課題名(英文)The urban planning and personal networks of residents in Canberra after the establishment of the local government

研究代表者

野邊 政雄 (NOBE, MASAO)

岡山大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90218347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,200,000円

研究成果の概要(和文)：オーストラリアの首都であるキャンベラはほとんど何も無いところに人工的に建設された都市である。当初、連邦政府がキャンベラを直轄していた。野邊はキャンベラの住民の人間関係に関する調査を1986年に実施し、その分析結果をまとめて博士論文を作成した。1989年に地方自治体であるACT政府が設立された。そこで、ACT議会の議員の選挙を通じて、住民は都市計画に民意を反映できるようになった。1986年の調査から四半世紀経過し、住民が大きく入れ替わった。本研究の目的は都市計画が近年どのように変化したかを探ると共に、四半世紀後に住民の人間関係がどのように変化したかを明らかにするのが本研究の目的である。

研究成果の概要(英文)：Canberra, the capital of Australia, is different from other ordinary cities in that the city has not developed naturally, but has been planned by the government. Originally, the national government ruled the city directly. The principle researcher conducted an interview survey in the city about personal networks of residents in 1986, wrote a Ph.D. thesis, and submitted to the Australian National University. Thereafter, the local government (ACT government) was established in 1989, and its residents have come to vote for local politics, including urban planning. In addition, its residents have changed dramatically since the 1986. The purposes of this present study are to investigate recent urban planning policies and to conduct another interview survey in Canberra about personal networks of its residents and to make clear the changes of the personal networks.

研究分野：地域社会学

キーワード：キャンベラ 人間関係 近隣住区論 田園都市 首都機能移転 都市計画 人工都市 国際情報交換

## 1. 研究開始当初の背景

キャンベラは1911年にオーストラリア連邦の首都にすると決められた。そこは、当時、羊の放牧場で、ほとんど何も無い土地であった。1911年にキャンベラの都市デザインの国際コンペが実施され、ウォルター・パーリー・グリフィンの案が採用された。1927年に連邦議会議事堂(現在の、旧連邦議会議事堂)ができ、キャンベラは正式にオーストラリアの首都となったが、大恐慌などがありその後ずっと都市建設が進展しなかった。連邦政府は1958年に首都開発委員会を設置し、同委員会に都市計画の大きな権限とそのための財政的な裏づけを与えた。その結果、1960年頃から都市開発が進展し、キャンベラは首都としての体裁を徐々に整えるようになった。連邦政府の官庁はそれまでメルボルンにあったが、1960年代と1970年代の前半にメルボルンからキャンベラに移転し、これに伴って多くの人々がキャンベラに転入した。1988年に新連邦議会議事堂が建設され、これによって首都として一応の完成をみた。

連邦政府はキャンベラをずっと直轄していたので、住民は選挙によって地方政治に民意を表出できなかった。このことは、必ずしもキャンベラにとって悪いことではなかった。第2次世界大戦直後から1973年まではロング・ブームと呼ばれる好景気の時代であったので、首都開発委員会には首都建設のための十分な財政的裏づけが与えられた。そして、首都開発委員会はほとんど何も無い土地に自由に都市計画をおこない、理想の都市を建設していった。ハワードの田園都市論、ペリーの近隣住区論、ラドバーンシステムといった、20世紀のニュータウン建設を支えた理念をキャンベラの都市建設に適用した。田園都市論にもとづいて、広大な森林公園や近隣公園がある。ラドバーンシステムのおかげで、近隣住区内の車道と歩道が完全に分離され

ており、住民は歩道を通って学校や商店へ安全に行くことができるようになっている。また、近隣住区内の車道が曲がりくねっているため、通過交通が近隣住区の中に入ってこないようになっている。

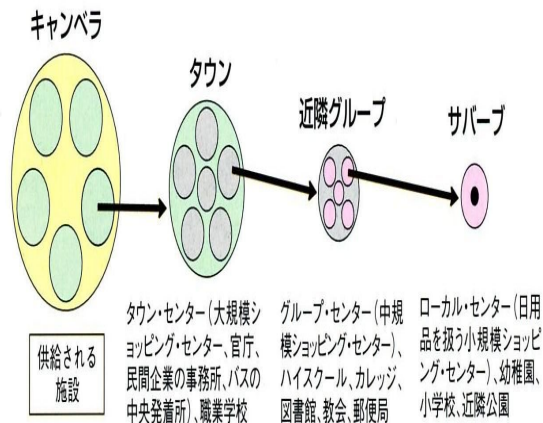
キャンベラの開発方針は次のようなものである。サバープ、近隣グループ、タウンという3つのレベルが設定され、それぞれのレベルに生活関連施設や行政・商業施設が下の図のように配置されている。サバープは小学校区ほどの広さであり、ペリーの近隣住区論にもとづいて建設されている。小学校、幼稚園、近隣公園、日用品を扱う小規模ショッピング・センターを近隣住区(サバープ)に配置し、近隣住民の交流頻度を高めることによって、住民の近隣関係形成や地域的一体感醸成をめざしている。そして、タウン内にある生活関連施設や行政・商業施設を利用すれば、住民は生活をおくれるようになっている。このような開発方針のために、住宅地ではどこに行っても同じような施設があり、同じような景観である。それぞれの地域にあまり特徴がない。キャンベラは、現在、イナーキャンベラ、ウォーデンとウェストン・クリーク、ベルコネン、タグラノン、ガンガーラン、といった5つのタウンから構成されている。

野邊は1980年代後半にキャンベラにあるオーストラリア国立大学に留学し、そうした人工的な都市環境が住民の人間関係にどのような影響を及ぼすのかを研究した。1986年に住民へのアンケート調査を実施し、次のようなことを解明し、博士論文としてまとめた。

住民は近隣住区(サバープ)内で近隣関係をあまり取り結んでいない。

住民はキャンベラ内のさまざまな場所に住む人々と多くの友人関係を取り結んでいる。

住民は、メルボルンに住む多くの人々と親族関係や友人関係を取り結んでいる。



## 2. 研究の目的

その後の 1989 年に連邦政府は自治政府である ACT 政府を設立し、首都開発委員会を解散した。そして、キャンベラの住民は ACT 議会の議員選挙を通して地域政治に民意を表明できるようになった。そこで、住民は都市計画にも民意を反映できるようになった。住宅地の都市計画は ACT 政府が担うようになり、住民は都市計画と都市建設の経費を直接負担することになった。

1986 年の調査から四半世紀以上経過し、住民が大きく入れ替わった。また、行政の仕組みも変化した。本研究の目的は、こうしたことが住民の人間関係にどのような影響を及ぼしたかをキャンベラで人間関係の調査を新たに実施することで解明することである。1986 年の調査データと本研究で収集する調査データを比較・検討することによって、そうした解明をおこなう。

日本でも首都機能移転が議論されたことがある。新たな都市を建設したとき、人間関係がどのように育ってゆくかを研究することは首都機能移転の議論に資すると思われる。

## 3. 研究方法

(1) 個人の人間関係を測定する英文の質問をオーストラリア国立大学講師の Dr. Alden KlovdahI に協力してもらい作成した。そうした質問をまとめて、レイアウトをして、調査票を作成した。25 歳から 55 歳までの女性をキャンベラで無作為に選んだ。そして、2013 年の 3 月から 5 月にかけて、調査員による個別面接調査を実施した。224 人に対して調査を実施した。回答を数字に直してパソコンに入力し、データの分析をおこなうが、その作業は完了した。現在、データを分析しており、報告書等をできるだけ早く作成する予定である。

(2) キャンベラの地方自治体 (ACT 政府) が設立されて以降、キャンベラの住宅地の都市計画がどのように変化したかを明らかにするために、キャンベラに出張したとき、ACT 政府の都市計画担当者に近年の都市計画の動向を聞き取り調査した。また、キャンベラにあるオーストラリア国立大学図書館と国立図書館等で文献調査をおこなった。

(3) 2013 年の後半から回答を数字に直すコーディングの作業を始めた。このときに、予想もしなかったいくつかの問題が持ち上がった。調査員による手書き文字を判読するのにとても時間がかかった。研究代表者では判読できない文字もあった。また、調査対象者に自分の仕事内容を説明してもらい、その説明にもとづいて職業分類をおこない、コーディングをした。その際、オーストラリアの国勢調査の職業分類に従って、回答者の職業分類をすることにした。キャンベラには官庁が集中しており、回答者の 70% 以上が公務員であった。オーストラリア統計局の資料を取り寄せて検討したが、公務員の場合、どの地位から上の公務員を

管理職と分類するか、また、一般の公務員は単に事務職と分類するのかそれとも実際にしている仕事内容にもとづいて職業分類をするのか分からなかった。オーストラリア統計局に何回もメールを出して問い合わせたが、十分な回答を得られなかった。そこで、2015年3月にキャンベラに行き、知り合いに判読できない手書き文字を読んでもらい、オーストラリア統計局で国勢調査では公務員の職業をどのように分類しているかを問いただした。公務員の職業をどのように分類しているかが具体的に分かったので、コーディング作業が進展し、それを終えることができた。そして、データをパソコンに入力し終えた。現在、キャンベラ住民の人間関係についてのデータをパソコンで分析している。

#### 4. 研究成果

(1) 上述の理由からコーディング作業にとっても時間がかかってしまい、印刷物でのキャンベラに関する研究成果を発表できていない。データはパソコンで分析できるようになっているので、分析を進め、できるだけ早く研究成果を出したい。

(2) キャンベラのオーストラリア国立大学図書館や国立図書館で文献調査をおこなった。これにもとづいて執筆した、メルボルンに関する論文は発表できた。使用したデータは過去の科学研究費を使って集めたものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

野邊政雄、「グリアの”Urbanism Reconsidered”再考—メルボルン郊外に住む女性のパーソナル・ネットワークと集団加入—」, 地域社会学会年報、第27集、2015年、地域社会学会、93-111頁、査読有。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

野邊 政雄 (NOBE MASAO)  
岡山大学大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：90218347

##### (2) 研究協力者

Alden Klovdahl  
adjunct professor, the school of public health, the university of texas, houston.  
visiting researcher, Karolinska Institute, Stockholm, Sweden  
Department of Sociology, Stockholm University, Stockholm Sweden.